

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成30年9月21日から平成31年2月1日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B18015、05022、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年12月現在）

事業所名： (施設名) 長野市共和保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 83名（97名）
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和31年1月1日
経営主体： 長野市	
所在地：〒381-2235 長野県長野市篠ノ井小松原2322-15	
電話番号： 026-292-0613	FAX番号： 026-292-0613
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員： 17名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・子育て支援員 1名
	・保育主任 1名 ・給食調理員 6名
	・保育士 26名
施設・設備 の概要	(設備等)
	・乳児室 … 1室 ・ほふく室 … 1室 ・保育室 … 4室 ・一時預かり保育室 … 1室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 2室
	(屋外遊具)
	・2人ブランコ ・三間低鉄棒 ・はん登棒 ・複式滑り台(使用不可)

3 理念・基本方針

<p>長野市が目指す子どもの姿 (長野市乳幼児期の教育・保育の指針より)</p> <p>かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのキッズ</p> <p>安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して 友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。</p>

【教育・保育の基本方針】

○健康な心と体を育てる

自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う

○感じて、考えて、チャレンジする力を育てる

好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる

○自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進

満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。

○人との関わりを大事にする教育・保育の実践

自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践

○家庭や地域との連携

子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て・子育て支援を行います

○保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った

全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

○共和保育園 保育目標

「いってみよう やってみよう！ わくわくすること みつけよう！」

- ・自分に自信を持てる子ども
- ・よく遊び、良く食べ、よく眠る

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当共和保育園は長野市が直接運営する28園(内休園1園)のうちの一つで、昭和31年1月に当時の篠ノ井町の町立保育園として開設され、現長野市西部の中規模園として運営、継続されている。

当保育園の前身は旧共和村の小松原、岡田、新田、各地区に春秋の農繁期に開所した季節託児所で、昭和29年7月旧共和村が篠ノ井町に合併され、それに伴い昭和30年12月に篠ノ井町立共和保育所が開設され、昭和31年1月に篠ノ井町立共和保育園として児童福祉施設の認可を正式に受けた。その後、昭和34年5月に篠ノ井市の誕生とともに篠ノ井市立共和保育園となり、更に、昭和41年10月、長野市、篠ノ井市など2市3町3ヶ村の合併が実現し、当保育園も長野市共和保育園となった。

昭和55年3月には老朽化による全面改築が竣工し定員120名となったが、その後、定員65名という時期もあり、長野オリンピック後のJR今井駅周辺の新興住宅地の増加とともに定員85名にまで回復し、平成26年耐震工事完了を経て、現在、83名定員で運営されている。

当保育園は広々とした通称川中島平の西部丘陵地帯の裾野にあり、自然が豊かで、子どもたちの散歩や探索の場として、また、遊びのエリアとしても広い。当園は長野市篠ノ井犀口から長野市篠ノ井布施高田に通じる、りんご畑が両側に続く、南北の路線、県道383号線から少し入った場所があり、近くには裾花凝灰岩と呼ばれる白色・淡黄色で構成される中尾山があり、また、その並びの茶臼山には「茶臼山自然動植物園」もあり、現在、恐竜公園、植物園、動物園、自然史館、おとぎの国、冒険の森、マレットゴルフ場など自然に親しむ文化・レジャー公園が整備され、市民憩いの場としてにぎわっている。

平成28年8月には「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在3年目に入っている。当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)には中

尾山や枝垂れ桜で有名なお寺、リンゴ畑の中の道、JA支所、専門学校、小学校などがマークされイラストなどで構成されており、四季折々の自然や動植物に親しみつつ五感を思う存分働かせ豊かな感性を育て、また、地域の人々と挨拶を交わしながら様々な自然体験や社会体験、生活体験をしている。

こうした中、子ども達の多くが住む篠ノ井小松原・岡田地区、川中島町今井原地区はりんごを中心とした農業を営む3世代同居の家庭の他、長野オリンピック以降、一戸建ての団地が増え、核家族世帯が増加傾向にあり、若い子育て世代の人口も増えつつある。地域の人々の当保育園への関心は高く、園に通う子どもたちも祖父母と同居や近くに居るなど、子育てに協力的な風土がある。当保育園の東方向には園の多くの子どもたちが就学する長野市共和小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の中の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校に出向き学校探検をしたりマラソン大会の見学をするなど、小学校児童との様々なふれあいの時間を持っている。

現在、当園には0歳児と1歳児のひよこ・たまご組、1歳児と2歳児のぼんだ組、3歳児・4歳児・5歳児のももりんご組・きいろりんご組・あかりんご組・あおりんご組の六つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された平成30年度の「全体的な計画(保育課程)」の下、職員は「いってみよう やってみよう！ わくわくすること みつけよう！ 自分に自信を持てる子ども よく遊び、良く食べ、よく眠る」という目標に沿い、子どもたちが心身ともに健康で個性豊かな育ちを身につけ、小学校からその先の「生きる力」の基礎を培うために、園内外の研修などで保育の専門性を高めつつ、意思統一を図り実践している。

また、当園では保護者のニーズに合わせた様々なサービスを提供しており、仕事と子育ての両立等を応援するために長時間保育や一時預かり、障がい児保育等を実施している。長時間保育は短時間保育利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで、標準時間保育と合わせると三分の二近くの子供達が利用している。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じ1ヶ月に10人から15人ほどの子どもを受け入れている。障がい児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容で当園でも実施している。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、福祉サービス第三者評価の受審、長野市運動プログラムの充実、運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ること等に積極的に取り組んでいる。また、職員は、当園の事業計画のうちの重点課題、「保育内容の充実」として信州やま保育の充実や地域資源と人材を生かした保育の推進、異年齢保育の充実、小学校との連携の推進などにもきめ細かく取り組み、一人ひとりの子どもの成長の時期に合わせ、頑張った課程を認めしっかり褒めることで自信を持っていろいろなことへの関心・意欲を高められるように、一人ひとりの職員が自己研鑽しつつ組織としても労働意欲の向上や士気高揚を高め保育の質の向上を図っている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1)自然環境を活かした保育

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰで「『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その1の「自然環境を活かした体験活動の充実」として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」とし、また、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる

環境を整える」、「信州型自然保育認定園を増やす」等としている。

当保育園は、既に平成 28 年に「信州型自然保育(信州やまほいく)」の認定園となっており本年度 3 年目を迎えている。

当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)には中尾山やその麓の温泉施設、枝垂れ桜で有名なお寺、リンゴ畑の道、JA 支所、専門学校、小学校などがイラストなどでマークされており、四季折々、虫を捕まえたり草花や木の実を見つけたりして自然や動植物に親しみ、「わくわくドキドキ」する感動を覚えつつ伸び伸びと楽しく遊び、雨の日にも合羽を着て出かけており、リンゴ畑で作業に励む人々や地域の事業所の方々とも挨拶を交わし、様々な体験をしている。

また、散歩コースで捕まえたカブトムシ、クワガタ、カタツムリなどを園に持ち帰り飼育したり、園の畑や敷地内で野菜を栽培しており、未満児はプランターでフルーツホウズキ・ミニキャロット、年少児はミニトマト・オクラ・モロヘイヤ、年中児はキュウリ・ナス・サヤエンドウ・ブロッコリー、年長児は赤紫蘇・トウモロコシ・キャベツ・トマトなどを地域の人々からの指導を受け栽培し、その生長を観察し、収穫したものを給食食材として使用するなど、「食」の大切さも学んでいる。そのほか花のボランティアの協力もいただきプランターなどで育てている。

身近な自然の中で教えたり、教えられたりして遊びを通じて人間関係なども学んでおり、様々な事物と触れ合いながら「自然体験」をし、また、野菜や花などを育てる作業を通じて「生活体験」もしており、一人ひとりの子どもの「出番」と「居場所」、「その子どもに合った育ち方の保障」をしつつ豊かな感性を身に付けられようとしている。

2) 地域の人々との交流

当保育園の保育方針では「地域に開かれた保育園を目指し、子育て支援や世代間交流を行います」としており、年間の事業計画や「全体の計画(保育課程)」にも具体的に掲げ、子どもたちが地域の文化に触れ、地域に親しみや愛情が持てるように位置づけて実践している。

地元共和地区などと積極的な連携を図り、子どもたちが地域の社会で色々な体験ができるようにしている。園近くの軽費老人ホームの高齢者との「世代間交流」では年長児や年中児がその施設を訪問し歌や園の夏祭りで制作した神輿を披露したり、施設の利用者が園を訪問しボランティアによる楽器演奏や子ども達が園の「たのしみ会」で発表した劇などを楽しんだりしている。また、地域の「ひめりんごの会」の方の読み聞かせやボランティアによる花の栽培、プロサッカーチームの広報担当によるサッカー教室なども行われている。更に、園の夏祭りの神輿や七夕飾りを JA 支所に飾っていただいたり、ハロウィンには専門学校を訪れたりして園の活動もアピールしている。

「長野市子ども・子育て支援事業計画」の「乳幼児と触れ合う機会の提供」として地域の学校教育等への協力についての姿勢が明文化されており、中学生の職業体験の受け入れ、実習生の受け入れなどを行っている。更に、小学校とは年長児が一日入学や運動会の旗拾い、来入児検診、小学校児童と小学校内の探検や遊び等で交流をしている。

6 月から翌年 2 月の毎週木曜日に未就園児とその保護者の交流の場としての「おひさま広場」を開き、園内外で遊んだり、幼児と交流したりできるようにしている。また、子育て相談に応じたり、保護者向けの「保育体験」、父と子のふれあい事業の開催も行っており、主任が地域の保健センターに出向き、4 ヶ月健診で情報等の提供を行ったり相談に応じたりしている。

3) 子どもの安全確保への取り組み

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅲで『育ちを守る』教育・保育環境の充実」と掲げ、その 3 の「防災・防犯対策や交通安全対策の充実」として「水防計画などを作成し防災計画を高めるとともに」とし「確実な避難誘導ができる行動力を身につける」としている。

当保育園ではヒヤリハット事例がたくさん出されており、事故に関しての職員の意識が高く、毎週の職員会で改善策をしっかり立てている。また、毎月避難訓練や引き渡し訓練を実施し、万が一の災害に備え、更に、毎月複数の職員で園内の同じ場所をチェックして、リスクマネジメントをしている。

ヒヤリハット事例は月 1 回の安全衛生委員会で検討し、毎週の職員会で具体策を立て予防に努めている。各種事故に触れている危機管理マニュアルで研修を行ったり、また、事故・怪我のマニュアルの読み合わせをし、危機管理手順の記載されたフローチャートをラミネート加工し事務所に掲げ、すぐに確認できるようになっている。また園庭や散歩コースのヒヤリポイントが書か

れたマニュアルも掲示されている。毎日、園庭の遊具の点検を実施し、月1回、園内の点検を複数の職員で同じ所をチェックし、見落としのないようにしつつ安全を確保している。

危機管理マニュアルの各種災害対応フローを基に体制を確認し、事務所には災害時持ち出しリュックがあり、また、その中には災害時引き渡し確認表が入っており、確認できるようになっている。緊急時には職員参集メールや緊急連絡網で人員を確保するようにしている。園は土砂災害警戒区域内にあるため、毎年消防計画書や土砂災害に関する避難確保計画を消防署へ提出し、毎月、地震や火事、不審者対応などの避難訓練を実施している。10月には保護者への引き渡し訓練も行っている。また、園庭入り口には食料品や水・備品などの備蓄があり、園長や主任が定期的に非常持ち出し品リストに従って整備をしている。日頃から管轄の消防署や駐在所と連携をとれるように体制も整備されている。

4) 社会性や協調性、思いやりの心を育てる異年齢保育(縦割り保育)

当保育園の今年度の事業計画の中の重点課題の「保育内容の充実」として「異年齢保育を充実」することを掲げており、3歳児7名・4歳児6名・5歳児5名のももりんご組、3歳児7名・4歳児6名・5歳児5名のきいろりんご組、3歳児5名・4歳児7名・5歳児5名のあかりんご組、3歳児7名・4歳児6名・5歳児5名のあおりんご組という幼児の4クラスがあり、異年齢の友達と元気に遊んだり生活を共にする中で相手に自分の思いを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたり、友達の良いところに気付き分かり合い、友達と共通の目的に向かってやり遂げるといふ喜びを味わっている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰでも『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その3の「人との関わりと表現力を養う活動の充実」として「自分とは異なる思いを持つ友達の存在に気付き人には違いがあり、違って良いと理解する心の育成」として目指す内容を示しており当園でも具体的に実践している。

当保育園ではクラスは違いながらも、3歳以上児は年齢が分かるように日よけのついたカラー帽子をそれぞれ着帽しており、基本的に午前中は同年齢同士の横のつながりを主とした活動を行い、午後は異年齢の子どもたちでのクラスの活動をしている。

各クラスの遊びが年長児から年中児、更に、年少児へと自然に伝わり、みんなが楽しく遊ぶためにルールや役割分担が自然に生まれており、年下の子どもは年上の子どもに刺激を受けて興味や関心の幅を広げており、年上の子どもを目標とするため実力以上の能力を発揮している。一方、年上の子どもの場合、年下に様々なことを教えることによって、思いやりの気持ちを育むことができ、さらに、年下の子どものお手本になることで、自分に自信を持つことができるようになっている。

核家族、少子化で年齢の異なる子ども同士で遊ぶ機会が減少している現代において、異年齢保育(縦割り保育)は子どもたちが年齢の垣根を越えて交流できる貴重な場となっており、職員も一人ひとりの子どもの家庭の背景を把握し、自らも保育の幅を広げる良い機会と捉え日々の保育を行っている。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 保護者からの相談や意見に対しての組織的かつ迅速な対応

保護者からの意見・要望・苦情等については職員間で検討し、回答や改善策を立て、個別にフィードバックしたり、アンケート結果で知らせるようになっているが、改善策について理解が得られていなかったケースがあり、また、職員間では共有されていたものの、保護者への連絡が遅くなってしまったということもあり、フィードバックの迅速さに欠けていたという事例も見られた。

保護者にしてみればフィードバックされた内容が的確かどうか、スピーディーであったかどうかという点が重要ではないかと思われ、特に、待たされるということは大きな不満に繋がるものと思われる。

常勤職員と短時間勤務職員との情報の共有化についても出勤したらボードを見ることになっているが、そこに記載されていない情報の中に大切なことがある可能性もあるものと思われ、自分が受け持っていないクラスの情報等も含めて、短時間勤務職員も多くの情報を把握できる円滑

な仕組みの構築が必要ではないかと思われる。

今後、更に職員間の報・連・相をきめ細かく行い、苦情等を申し出た保護者への経過や結果、改善策などについての説明を丁寧に行い、解決に向けて迅速に取り組まれることを期待したい。

2) メリハリのある異年齢保育と年齢別保育の実施

当保育園では基本的に午前中は同年齢同士の横のつながりを主とした活動を行い、午後は異年齢の子どもたちでのクラスの活動をしている。

一般的には異年齢のグループを編成し、一日のうちで時間を決め生活の諸活動(食事・午睡等)を共にしたり、また、1週間のうちの何日かを一緒に活動したりするという形態を取っている所が多いようである。

異年齢保育を「人生の縦の軸」とし、年齢別保育を「人生の横の軸」としている考えもあり、それぞれの保育のメリットとともにリスクが伴うこともあることから、子どもに合わせた対応を考える必要があるものと思われる。

年齢別保育は発達に応じた活動を取り入れることにより、同年齢で助け合い協力し、また、競い合うといった、家庭ではできない経験ができる点、その年齢で身につけるべき躰や基本的な習慣を同じ年齢の子ども達と共に学ぶことができるというメリットがあると言われている。

異年齢保育と年齢別保育の両方の良い面を取り入れ、更に「人生の縦の軸」として保護者や地域の人々との関係も重視し、市担当部署とも協働しながら当保育園独自の教育・保育のスタイルを確立されていくことを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成31年 1月31日記載）

第三者外部評価を受けるにあたり、全職員で再度、マニュアルの確認・子どもに寄り添う温かな保育・環境構成などについて園内研修を重ねてきました。

特に良い点であげていただいた『自然環境を活かした保育』『地域の人々との交流』『子どもの安全確保への取り組み』『異年齢保育』は、力を入れてきたことなので、職員の自信となりました。さらに伸ばしていくために努力してまいります。

改善を必要とする点では、

- ・保護者からの相談や意見等の解決に向けて迅速かつ丁寧な取り組み、短時間勤務職員への伝達共有の仕組み作り
- ・保育のねらいや取り組み過程を保護者にわかりやすく伝え、メリハリのある異年齢保育と年齢別保育の実践

に向けて全職員で話し合いを重ね取り組んでいきたいと思っております。

保護者の皆様へいただいたアンケートでの心温まるお言葉は、職員の励みとなりました。改善点は真摯に受け止め、職員一人一人が常に意識を持ち改善に取り組んでまいります。

最後に、新鮮な視点で評価していただいたコスモプランニングの皆様へ感謝申し上げます。